

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291500035		
法人名	株式会社あゆみ		
事業所名	グループホームあゆみの杜		
所在地	島根県飯石郡飯南町頓原1070		
自己評価作成日	令和3年10月21日	評価結果市町村受理日	令和4年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線上と考え、穏やかに一人ひとりがその人らしくいられる場所をつくっていきます。
 今後、地域の中でその方を見つめ、「どうありたいのか」という思いを大切に、家・地域の方等と「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」関わっていきます。
 ※季節ごとに楽しんで頂けるような、イベントを計画しています。
 ※地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。
 ※全館床暖房を使用しており、豪雪地帯の頓原にあっても、冬も暖かく過ごして頂けます。
 ※お風呂は隣接する頓原ラムネ銀泉のお湯を利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いに応じて墓参りを実現させたり、家族と一緒に、という思いで看取りの支援を行うなど、コロナ禍にあっても利用者、家族の思いに沿った支援をしたいと全職員が意見を出し合い今出来ることを行っている。食事はこれまで手作りと外注を取り入れていたが現在は手作りで提供し、時にはサンマを焼いたり弁当の日を設け食事を楽しめるようにしている。今年度からコンビニの移動販売車が来るようになった。町や他施設ともオンライン会議で情報交換を行い、最近では家族にラインで写真や動画を送り家族からも写真等が送られてくる。7月の豪雨時には地域に避難勧告が出されたが新たな課題もわかり対策を講じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、職員の目に入りやすい場所に掲示している。面談の際や職員会の時に話しをする機会を設けている。	職員会や面談の時に話をし共有化に努めている。入社時には所長が説明を行っている。職員は理念をもとにそれぞれが目標を立てて取り組み実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防をしながら地域資源(町内にあるりんご園や近隣の保育所)を活用している。病院受診時や理髪店に出向いた際、知人の方等と話しをされている。	コロナ禍にありこれまでと同じようには出来ないが、保育園児が七夕飾りを届けてくれたりコンビニの移動販売車の定期訪問、外出時に地域の人とふれあうなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての取り組みは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進会議を開催し意見を頂いている。コロナウイルス感染防止の為、状況に応じて集まったの会議が出来ず、書面で報告する事もあった。	感染予防の為書面での報告が多かったが、活動や利用者状況、会議や研修の報告などを行い委員の意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に市町村担当者にも参加して頂き、情報交換している。また、困難事例が出た際は都度相談している。	月1回の調整会議で情報交換をしたり困難事例を相談するなど、日常的に協力関係を築きサービス向上に取り組んでいる。豪雨時には地域の状況を報告し連携して対応した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼礼や職員会で話をしたり、施設内研修を実施している。虐待防止委員を中心に、11月に身体拘束について社内研修会を開催する予定としている。	虐待防止委員が中心になって全職員対象に研修を行い、身体拘束の内容を理解して意識的に取り組んでいる。チェックリストで日々のケアの振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	7月・8月に全職員を対象に虐待防止委員が主となり、社内研修会を行った。2ヶ月に1回虐待の芽チェックリストを全職員を対象に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されておられる方はおられず、学ぶ機会も設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネが契約時に書面を通して家族に説明をしている。その際、疑問や不安に思っておられることがないか聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回アンケートを実施し、家族からの意見を聞き出している。	毎年家族アンケートを実施し家族の意向の把握に努めている。家族は現状を理解し、最近ラインで写真を送ってくる人もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は、職員会や昼礼で聞き出し、出た意見を主任会の議題として出し、話し合い、決定事項として職員に周知している。	朝のミーティングや会議などで意見を聞く機会を設けている。職員は、入浴の方法や利用者が楽しんで生活出来るようにいろいろな提案を行い、意見は運営やサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家族の状況を考慮し、時間短縮等の対応をしている。年5回職員の希望日に有給を取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内が来た際に、スキルアップの為に受けた研修があれば申し出るよう話している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の開催される研修会に少人数だが参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保する為、出来るだけ自宅での生活環境に合わせるようにしている。また本人から要望等聞く事が出来ない方は、家族や関わってこられたケアマネ等から情報を収集し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があれば家族の意見を聞き、信頼関係が築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前に担当ケアマネからの情報を確認し、本人、家族と面接をして、必要に応じて相談する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない会話からお互いの想いを確認し、また洗濯物をたたんでもらったり等出来る事はして頂いている。その一方で職員が主体となってしまう事も多く、本人のできる力を引き出すことが不足している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりに担当職員を設け、定期的に近況報告を記載した広報誌や写真を郵送したり、電話やLINEを通して本人の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪は本人の馴染みの店にお願いしているが、コロナ禍であり十分な対応が出来ていない。それでも家族と相談しながら本人の要望に応えるよう努めている。	窓越しやオンラインでの面会、ラインで写真や動画を送るなど利用者の思いを汲み関係継続の支援に努めている。墓参りをしたいとの希望に家族と相談して職員と利用者で実現させ喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのテーブルを気の合う利用者同士になるよう配慮している。また職員が間に入り、会話の援助や一緒に行動することで、親しい間柄になられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族、本人から相談があれば対応している。また町であった際は声を掛け、近況を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始前に本人、家族から生活歴等の情報の確認をしている。入居後は本人との日常会話等から思いの把握に努め、それが困難な利用者については、本人の表情や家族の意向を聞いている。	日常の会話や表情などから思いの把握に努め、記録に残し職員間で共有して支援している。利用者の思いを大切に、出来るだけ実現させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を確認し、家族から意見等を聞き、把握する事に努めている。また入居後の会話等からも今までの生活状況等を把握出来る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子、状態、表情等を記録に残し確認する事で、情報を共有している。その一方で本人、家族からの意見が十分に聞けていない部分もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当職員による介護計画のモニタリングは実施出来ている。また必要時ケアの見直しを行っているが、評価について十分な話し合いが出来ていない。	ケアマネージャーや看護師、担当職員が話し合い利用者の希望を尊重した介護計画を作成している。家族とも相談しながら利用者の思いに沿うよう工夫して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や特変時、受診時の記録を個人ノートに記入し、情報を共有出来ている。その一方で詳しく記録されていない事も多く、介護計画の見直しに活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、墓参りに行ったり、自宅に外出したり柔軟な対応が出来ている。また訪問販売に来て頂き、買い物支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域振興券を活用したり、馴染みの店で散髪、食事、買物をして支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医と関係が切れない様支援している。また定期受診だけでなく、急な体調不良の際にも、本人及び家族に説明、同意したうえで受診するよう努めている。	かかりつけ医を継続している。現在受診には職員が同行しているが、医師から依頼のあった時は家族に連絡し同行して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づいた事を看護師に報告、相談し指示を受けて対応している。また必要に応じて医療機関に相談、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネ、病院、地域連携室と連携をとり動いている。また病院関係者から状況を相談されることもあり、利用者にとっての関係づくりは図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時の状況で出来る看護体制を伝え、ケアマネが調整している。ICに出席し、方針を決めたり共有することもある。	今年度、看取りの支援に取り組んだ。感染予防に努め、家族も一人ずつ泊まれるようにして、家族と一緒に、という思いで支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍でもあり定期的な訓練や研修会は実施できていないが、年1回の救急法の講義は実施するようにしている。また転倒時の対応等は会議で話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施。予測が可能なものについては早めから対策本部を立ち上げ全職員が対応出来るようにしている。また、必要な物はスタッフで話し合い早めに準備するようにしている。	7月には地域で60年ぶりという水害が発生し、周辺の川の氾濫や道路の陥没があった。職員の流れ、利用者の安否確認、必要物品、備蓄品など、課題もわかり対策を講じた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者との関係づくりにおいてしてはならない事」を施設内に掲げ、利用者一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。また、適切な声掛けの為にスピーチロックの研修を実施している。	接遇やマナー研修を行い、利用者の尊厳を傷つけないよう、言葉づかいや対応に気を付けている。入室時には必ず声をかけるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から利用者のしたい事や思いを聞き出し、出来る事は実行しているが、利用者の状況や職員の都合で出来ていない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者のペースに合わせて過ごして頂くようにしているが、忙しい時など職員の都合で入浴してもらったり、レクリエーションが出来ていない日などもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人と一緒にその日着る服を決めたり、散髪を定期的にししたりしている。季節や気温に合わせて、衣類を調整し着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍ということもあり一緒に準備などは難しかったが、個々に合わせた食事形態やトロミを使用し提供出来ている。また、時期や季節に合わせたメニューを取り入れている。	手作りの食事を提供している。弁当の日を設けたり、サンマを焼く、たこ焼きや焼き鳥を作るなど、季節や行事に合わせて食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量の記録を見ながらスタッフで相談し、利用者さんの無理のない範囲で提供し摂取して頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は義歯の取り外し、歯磨き、うがいを行ってもらい磨き残しがないか確認している介助の必要な方は介助を行い、必要に応じてスポンジブラシ等を使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導する方には時間を見て声を掛けている。またズボンの上げ下げなど自分で出来る所はして頂いている。尿量などを考慮使用するパットや紙パンツ等を個々に合わせて使用している	時間を見ながら声をかけ、利用者の力を活かしてトイレで排泄出来るように支援している。適切な排泄用品を使用し快適に過ごせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目に水分補給を促し、飲めない方はトロミや味を変えて提供している。排便困難な方には看護師に相談し、下剤の服用や浣腸などの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ一人ひとりの希望に沿って入浴して頂いているが、拒否がある場合は曜日や時間をずらして入浴して頂いている。清潔を保ちながらリラックスして入浴が出来るよう支援している。	利用者の状況に応じて普通の浴槽と特浴を使用している。特浴対応の人が増えていて、現在中間浴を取り入れるよう検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、日中のあいたに本人が出来そうな事をスタッフと一緒にいき、夜間眠れるように支援している。安心して眠れるように室温、照明などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服用される薬の内容を把握し、飲み忘れや誤薬が無いようにチェックシートを活用し、職員間でダブルチェックを行っている。状態に変化があれば、直ちに看護師に報告し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話の中から好きな事を把握し、支援している。楽しみだけではなく、手先を動かしたり体を動かす事で自立できるようにしている。また施設で花火大会などの行事を行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でもあり、町外への外出は出来ないが、施設の周辺を散歩したり、墓参りやりんご園に行ったりと、町内への外出はできている。	敷地内の花を見たり、地域の牡丹園や花見見物に出かけている。地域の祭りや花火大会は中止されたので、「あゆみ花火大会」を行いみんなで楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は事務所にて管理し、使用できるようにしており、自己管理できる方は個人で管理しておられる。また週に1度、移動販売車が来た時に預り金を渡し、自分で買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から荷物が届いた時など、本人と一緒にお礼の電話をし話しをして頂いている。また希望がある時は電話で話ができるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	排泄のにおいが共有の空間にこもらない様換気したり、消臭剤を使用して気を付けている。また季節の花を生けたり、イベント毎の飾り作りや飾りつけを一緒に作り、四季を感じて頂けるようにしている。	花や飾り付けを行い季節が感じられるようにしている。テーブルの間隔に気をつかい、廊下やホールにソファを置き自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル同士の間隔を広げ、個々に気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。また廊下やホールにソファを置き、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせた空間作りを行い、布団や家具類についても、入居される時に家族に話し、本人の物を持って来て頂いている。また家族の写真やお祝い事でもらったものを飾り、不安なく安心して過ごして頂いている。	馴染みのタンスや寝具類、写真などを持参して貰い、その人に合わせた居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望される方や、居室の場所が分からず不安になられる方の居室入り口に、表札をかけている。またトイレについても分かりやすく表示し、個々の身体状態に応じながら、出来る事を失わないよう支援している。		